

目的 アクリル酸(またはメタクリル酸)βアリルオキシエチルで綿布, レーヨン布に防しわ加工を行い, その初果を検査した。

方法 (イ)試験布は本取品40番綿ブロード(糸密度58×21本/cm), レーヨン布(糸密度44×30本/cm)を用いた。(ロ)アクリル酸(またはメタクリル酸)βアリルオキシエチルはアクリル酸メチル(またはメタクリル酸メチル)とβアリルオキシエチノールのエステル交換反応により掌法に従って合成したものをを使用した。(ハ)加工試験布の作製は種々のモノマー濃度のメタノール換り試験布を合成させ, 融媒を含むアセトニトリでスプレーし, 常温で予備乾燥後高温乾燥器で120℃~180℃, 5分~60分熱処理し, 水洗, ソーピングを行い乾燥したものを使用した。(ニ)防しわ度, 引張り強伸度, 引裂強度, 側軟度等の測定は掌法に従って測定した。

結果 (イ)防しわ初果はアクリル酸βアリルオキシエチルで加工したものの方がメタクリル酸βアリルオキシエチルで加工したもののより初果がけん着であり, 過酸化ベンゾイル-ナフテン酸コバルト系の融媒を用いた時が最も初果があった。また熱処理温度の高いもの程, 熱処理時間の長いもの程初果があった。四引張り強伸度は綿布では強度, 伸度共に低下し, レーヨン布では強度は殆ど変わらないが伸度は低下した。引裂強度は綿布, レーヨン布共に低下した。